

# 近畿民俗学会 研究集会

テーマ「医療民俗の躍進」

日時：2018年5月20日（日）13時～16時

会場：大阪歴史博物館 4階 第1研修室

アクセス：地下鉄・「谷町4丁目」駅下車

参加費：無料

## 1. 公開講演（60分）

大阪大学 CO デザインセンター教授

池田 光穂氏「民俗学とプラグマティックな医学について」

## 2. 研究発表（25分、含・質疑）

(1) 関西医療大学 特任教授 戸田 静男氏

「民間薬についての民俗学的考察」

古代より現在まで用いられてきた民間薬がいかにも用いられてきたか民俗学的に考察する。そして、その歴史のおよび現代における意義についても言及する。

(2) 京都仏眼鍼灸理療専門学校 教員 舟木 宏直氏

「年中行事と灸」

灸には、国家資格をもつ専門家が行うものと、宗教者や家庭内で行なわれるものがあり、後者の中には、古典医学書に記載のない灸の利用が多数存在している。本研究会では、年中行事に組み込まれた灸を中心に述べることにする。

(3) 佛教大学歴史学部 非常勤講師・帝塚山大学文学部 非常勤講師 大森 恵子氏

「湯治習俗の今昔」

今日では温泉というと、娯楽や親睦の場と考えられている。だが、医療機関や施術設備が整っていない社会では、古来、温泉地が病気を治す聖地であり、温泉そのものを薬湯・薬水として入浴や飲泉が行われてきた。民俗宗教を根底とする湯治の実態を中心に述べてみたい。

## 3. 討議（30分）

主催：近畿民俗学会

事務局：569-0055 高槻市西冠2丁目5番5号 伊藤方

